

第410回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 平成22年4月7日(水) 午前10:30より

2. 開催場所 長野放送会議室

3. 委員の出席

○委員総数 10名

○出席委員数 10名

○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 清澤 研道

副委員長 中村 重一

委員 井出 進子

委員 小出 貞之

委員 小松 正俊

委員 塚田 芳樹

委員 中西 満義

委員 丸山 仁也

委員 茂木 通則

委員 若麻績 信昭

4. 放送事業者側出席者

相崎 由松(代表取締役社長)

瀬木 潔(代表取締役副社長)

関 義 仁(取締役編成局・番組審議会担当)

松田 敏和(編成局長)

飯 嶋 憲 彦(編成局次長兼編成部長兼視聴者室長)

宮 本 利 之(制作局アナウンス室兼制作部主任、アナウンサー)

伊 藤 義 貴(報道局報道部、ディレクター)

山 口 慶 吾(番組審議会事務局長)

5. 議題

NBS月曜スペシャル

「みちくさ二人旅 雪の里いいやま ふれあい珍道中」

3月1日(月)午後7:00~7:54放送

6. 番組の内容

宮本・西尾のアナウンサーコンビが、冬の飯山を訪ね歩き、住民との交流を楽しみながら、伝統工芸や食文化など雪国の生活を体験、紹介した。

7. 審議の概要

- ・初めの段階では何を言いたいのかと感ずるところもあったが、中盤以降は興味深いものが紹介されて、地域密着型の番組として充実したものになっていた。
- ・雪に耐えるだけでなく、寒さや雪を利用しながら共存しているところが伺えた。
- ・全体として、肩がこらず、気楽に楽しく見ることができた。
- ・盛り込むテーマ、題材がたくさんあり、てんこ盛りの印象が否めない。
- ・地図による説明など、番組を見て飯山にいつてみたいと思う人への情報が乏しかった。
- ・ハンディキャップの多い地域の、元気で前向きに生活する姿をさらりとポジティブに表現していた。
- ・2人のアナウンサーの掛け合い道中として、行ってみたいと思わせるところやいろいろな情報があり、雪国飯山の新たな側面を知ることができた楽しい番組だった。